

令和6年度（追浜高等学校・定時制）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
① 法令遵守意識の向上	教育公務員としての自覚を持ち、法令遵守の意識を向上させ、公務外非行を防止する。	A（良好） コンプライアンスマニュアルを活用した研修会を実施し、他人事として受け止めるのではなく、自らを厳しく律するとともに、日ごろから教職員相互で注意し合うことができた。
② 職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ）の防止	他者の人権を尊重し、良好な職場環境の維持・確保に努め、ハラスメントを防止する。	A（良好） 職員啓発資料や事例集を参考に、職場の各種ハラスメントの理解を深めハラスメント防止に取り組んだ。人権についての職場研修を実施し、意識向上を図り、教職員相互での声掛けにより風通しの良い職場環境づくり推進した。
③ 児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	生徒の人権を尊重し、わいせつ・セクハラ行為発生を未然に防止する。	A（良好） 生徒指導、部活動等については、必ず複数の教職員で対応した。管理職は、授業や部活動の様子、教科準備室等の利用状況を日常的に巡視した。 不祥事防止研修会を通じて、経験の浅い教職員には教育公務員としての使命感や当事者意識を向上させた。 生徒の連絡先の適正な取得・管理方法等や教職員と生徒とのSNSの利用が不適切である事を再確認した。
④ 体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、わいせつ・セクハラ行為発生を未然に防止する。	A（良好） 体罰防止ガイドラインを活用し、不祥事防止研修会を実施した。体罰に該当する行為を適切に理解するとともに、生徒の理解のもと適切な指導につなげた。 管理職は、指導困難な生徒の対応を特定の教員が抱え込んだりすることのないよう、組織的な指導を徹底した。
⑤ 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取り扱いに係る事故防止	入学者選抜業務、成績処理の誤りや調査書等の進路関係書類の誤発行を根絶する。	A（良好） 業務マニュアルや点検体制における業務内容や手順を再確認し、不祥事防止に向けた取組を継続した。 研修会において入学者選抜業務の重要性を再認識させ、あらゆる場面で不祥事防止に向けた体制づくりを徹底した。
⑥ 個人情報等の管理・情報セキュリティ対策	個人情報の適正管理及び情報セキュリティ対策を適切に行い、情報の取り扱い、紛失・流失を防止する	A（良好） コンピュータ利用・情報セキュリティ・文書管理に関するルールを理解を深め、適切な個人情報の取扱いや管理についてルールの徹底を図った。 個人情報が含まれる書類送付に際しては、誤送付防止に向けた確認を複数人で実行した。定期考査期間においてシュレッダー使用規制や注意喚起により誤廃棄防止を徹底した。
⑦ 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の遵守に努めるとともに、安全運転を行い、交通違反や交通事故を防止する。飲酒運転は絶対に行わない。	A（良好） 研修資料を活用し、交通事故発生 of 未然防止及び酒酔い、酒気帯び運転の根絶や交通ルールの遵守に向けて意識を高めた。

⑧ 業務執行体制の確保等	円滑な業務執行にむけて、グループや学年、各教科において情報の共有と業務改善を推進する。	A（良好） 教職員の情報共有と業務協力によって、一人ひとりの負担を軽減し、組織として質の高い業務遂行に取組めた。
⑨ 財務事務等の適正執行	県の会計基準に沿って、公費・私費・部活動費等の適正かつ公正な管理及び執行を行う。	A（良好） 公費執行手続きを徹底すると共に、私費会計処理の手引きに従って適切な処理を実施し、複数の職員で定期的に執行状況等の点検を実行した。 現金の取扱いについて、適切な管理を徹底し、現金一時預かりは、保管方法と状況を複数の職員で確認し、細心の注意を払った。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

令和6年度不祥事ゼロプログラムの行動計画に基づき、不祥事防止会議と不祥事防止研修会の連携を強化し不祥事防止に取り組んだ。不祥事防止会議では、研修内容の企画・立案を検討し、不祥事防止研修会では全教職員が研修担当者として研修の運営に携わり、啓発資料を活用し注意喚起を行い、日常的に不祥事防止に対する意識向上に努めた。全教職員が自分自身の事として捉え、研修会に取り組んだことにより不祥事防止ゼロプログラムの目標を十分に達成することができた。

令和7年度においても不祥事防止プログラムの行動計画に即して、不祥事防止会議や研修会を実施し、教職員のコミュニケーションを重視し、職場環境整備に務め、不祥事防止に向けた環境づくりを推進する。